平成９年９月

# 編集後記

昭和56年に技報が創刊されてから15回目を迎えることになりました．一昨年の阪神・淡路大震災により，技報編集作業が大幅に遅れたこともありましたが，無事第15号を発刊することができました．この「技報第15号」では，過去最高の全18編におよぶ論文が掲載されています．このうち13編は，震災復旧関連のものであり「震災復旧特集号」となっています．

阪神・淡路大震災により被災した阪神高速道路は，平成８年９月30日に623日ぶりで全線復旧開通しました．当初３年は要するといわれていた復旧作業が，予定よりも大幅に早く実現しました．このように不可能であると思われていた短期間での復旧を可能とした土木技術は，まことにすばらしいものであるとあらためて痛感しています．また，復旧作業に携わられた皆様の技術力や昼夜を問わない努力には尊敬の念を表す次第であります．

震災復旧工事誌「大震災を乗り越えて」では，震災復旧全体におよぶ報告がなされる予定です．本技報では，その中で特筆すべきものを取り上げ，深く掘り下げた内容として掲載しています．これらは，復旧工事や補強工事から得られた新しい技術に関したものであります．

道路橋示方書をはじめとする各基準類は，この地震の教訓を反映させた形として改訂されてきております．今後，土木構造物は，より強くなってきます．また，周辺環境との調和を考えることも重要となっています．我々土木技術者は，今回の震災を忘れることなく，新しく得た数々の技術とともに未来に向い進まねばなりません．新しい路線や環境問題に対応した最新技術に関する論文も同時に掲載しています．本技報が，今後の土木技術向上の一助になればと念ずるものであります．

最後になりましたが，特別論文を執筆して頂きました福山大学 福本唀士教授，編集委員長ならびに巻頭言を執筆して頂きました江頭常任参与をはじめ論文執筆者および編集委員，幹事の皆様に深く感謝いたします．

（山口　博継　記）